

家庭学習の習慣化をめざして

錦町の小中学校では、家庭学習の習慣化をめざして保護者向けの啓発資料を作成しています。学級通信の裏に印刷したり、学期初めに配付したりするなどの周知をお願いします。

家庭学習の習慣化をめざして

「やったね!」「よくできた!」などのほめ言葉が、学習への意欲を生み出します!



錦町教育委員会

学校と家庭との協力

最近、「家庭での学習時間の減少」「テレビやSNS、ゲーム等のスクリーンタイムの増加」など子どもたちに関する様々な課題が全国的にも指摘されています。

錦町の児童生徒の自己実現のために、学校と家庭が連携して、子どもたちに確かな学力や豊かな心を育むことが大切です。発達段階に応じた取組や声掛けなど、学校と家庭で協力して行いましょう。

錦町マスコットキャラクター
熊太郎 (くまたろう)

基本的な学習習慣を身に付ける

低学年 家庭学習計20分以上

家庭学習の習慣を身に付ける大切な時期です。一緒に寄りそいながら見守りや確認を行いましょう。

- ① 合計20分以上学習できるようにしましょう。
- ② 家庭学習の内容と一緒に確認し、家庭学習の習慣化につなげましょう。音読は必ず聴きましょう。
- ③ 宿題をして、必ず提出できるように確認しましょう。宿題や音読ができたらほめ、進んで学習する意欲を高めましょう。
- ④ やり遂げた宿題を見て、頑張りを認める声掛けをしましょう。

中学年 家庭学習計40分以上

家庭学習を定着させる大切な時期です。自主性を育てながら、見守りや確認を行いましょう。

- ① 合計40分以上学習できるようにしましょう。
- ② 家庭学習の順序を子どもと一緒に話し合い、自分で宿題等を終わらせる習慣をつけさせましょう。
- ③ どんな自主学習をするよいかなどについて話し合い、自主的に取り組むことができればしっかりほめましょう。
- ④ 意欲が高まる声かけをし、できたところをしっかりと認め、ほめましょう。

計画的・継続的な学習習慣を身に付ける

高学年 家庭学習計60分以上

自主性や計画性を身に付ける時期です。生活や授業に合わせた学習ができるよう、見守りや確認を行いましょう。

- ① 合計60分以上学習できるようにしましょう。
- ② 学習内容や時間・場所など、子どもと一緒に話し合い、計画表を作って学習させましょう。
- ③ 計画的・継続的に家庭学習に取り組むことができたらほめましょう。今の目標や将来の夢について話題にしましょう。
- ④ 自己肯定感が高まるように、学校や家庭での頑張りを認め、ほめ、励ましましょう。

中学生 家庭学習計2時間以上

進路実現を目指す時期です。時間を有効に活用して学習するための見守りや確認を行いましょう。

- ① すき間時間を活用し、合計2時間以上学習できるようにしましょう。
- ② 様々な提出物・テスト等に向けて目標達成できるように、学習計画を立て、見通しをもった学習をさせましょう。
- ③ 将来の進路について一緒に考え、励まし、様々な可能性について話し合いましょう。
- ④ 子どもの自尊感情が育つように、子どものがんばりを認め、ほめ、励ましましょう。

★ できるようになったら、上の学年のめあてに挑戦させましょう。

学力と学習習慣・生活習慣との関係

全国学力・学習状況調査の質問紙の結果から、特に学力との関係が高い傾向にあった基本的な生活習慣は次のような点です。

小学校

- 朝食を毎日食べている。
- 起床時刻と就寝時刻が決まっている。
- 読書する時間が確保されている。
- スクリーンタイムは1時間以内。

中学校

- 学校に持っているものを前日に確かめている。
- 計画的に学習をしている。
- 家で苦手な教科の勉強をしている。
- スクリーンタイムは午後9時まで。



基本的な生活習慣が大切です。

なぜ、家庭学習（自律学習含）が大切なのでしょうか。

1 学習指導要領

① 改訂の趣旨（まえがき）

子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成する

② 改訂の経緯

子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築すること

③ 確かな学力（第1章第1の2の（1））

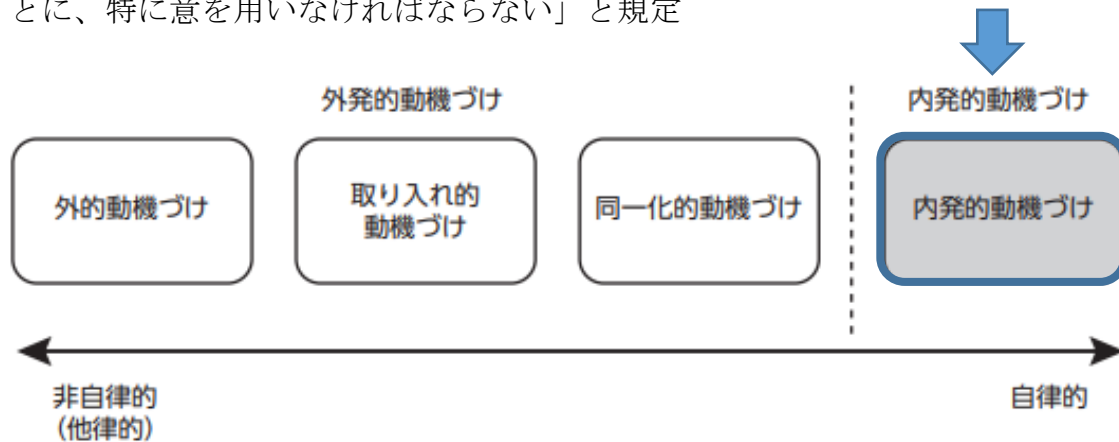
ア 家庭との連携を図りながら、児童の学習習慣が確立するよう配慮すること

イ 小学校教育の早い段階で学習習慣を確立することは、その後の生涯にわたる学習に影響する極めて重要な課題であることから、家庭との連携を図りながら、宿題や予習・復習など家庭での学習課題を適切に課したり、発達の段階に応じた学習計画の立て方や学び方を促したりするなど家庭学習も視野に入れた指導を行う



2 学校教育法第 30 条第 2 項

小学校教育の実施に当たって、「生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない」と規定

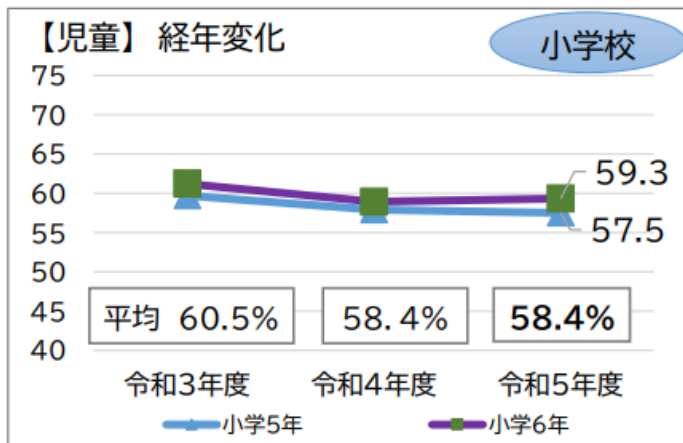


ベネッセ教育総合研究所 小中学生の学びに関する調査報告書より

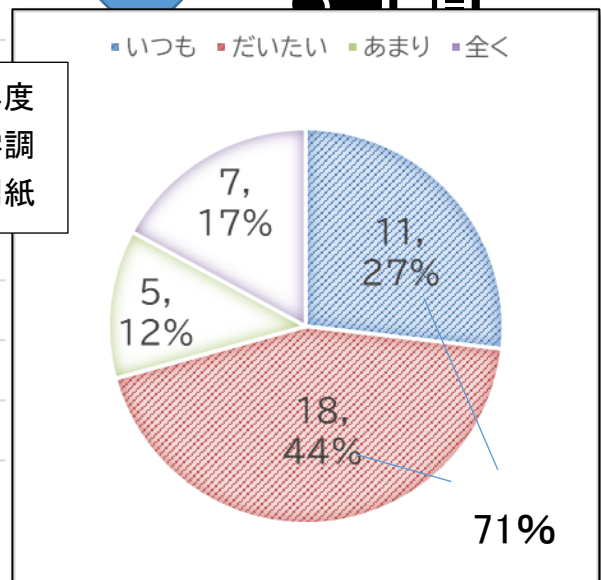
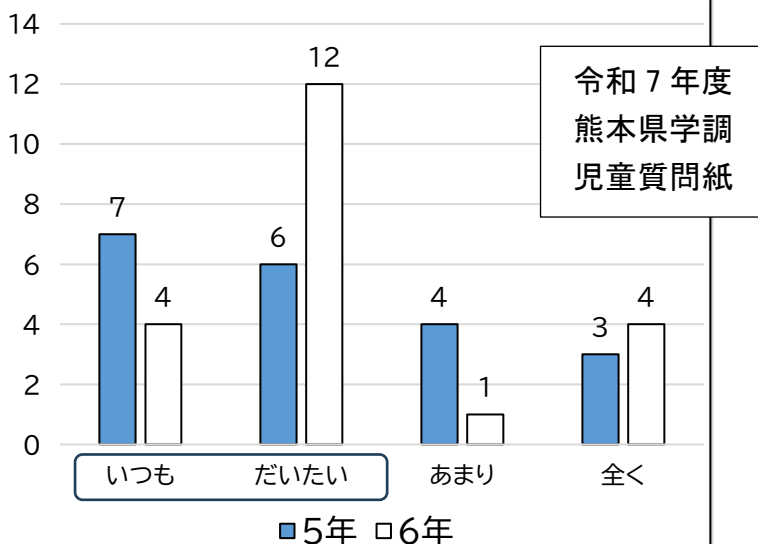
重点取組の参考指標と『熊本の学び』アクションプロジェクトに関する質問項目

勉強するときは、自分で計画を立てていますか。

「いつも立てている」＋「だいたい立てている」の割合



【自分で計画を立てる習慣】
本校は県平均より上位の状況にあります。



おまけ

小学生が家庭学習ですべき勉強の内容（保護者向け）

※ 懇談会などで活用

（１）低学年（１年生・２年生）

小学校低学年は、学習自体に新鮮さを感じている段階です。また目に映るもの、聞こえるもの、あらゆる方向に興味をもっているため、この好奇心に寄り添うようなサポートをするとよいでしょう。

教科に関わらず、お子さまの「知っている」を増やしてあげてください。授業で答えることができると、自尊心が満たされ、勉強を楽しく感じられるようになります。しかし注意が必要な点は、逆に知りすぎてしまうこと。授業そのものがつまらなくなってしまうため、予習はやりすぎないように注意するようにしましょう。

（２）中学年（３年生・４年生）

中学年になると、社会や理科の学習が始まり「覚える項目」が増えていきます。机上の勉強だけでは興味をもちにくく、なかなか覚えられないことから授業もつらく感じるお子さまも出てくるでしょう。日常的に、錦町図書館へ行く、家庭菜園を行うなど、体験を通して理解していける環境をサポートすることも大切です。

また、算数も新しい分野が増え、抽象的な問題が多くなってきます。この年代で、算数が苦手分野になってくるお子さまも多いようです。買い物やケーキの切り分けなど、生活に近いところで分かりやすく伝えていくことで、勉強に結びつけて考えられるようになります。

（３）高学年（５年生・６年生）

中学生になる前の小学校高学年の時期は、親も子どもの学習状況にセンシティブになりやすい時期です。同時に小学校での学習内容も一段と難しくなり、得意・不得意な科目がはっきりします。応用力が必要な学習内容が多くなり、特に算数で前に進めなくなる子どもも増えていきます。具体的な解決方法を教えながら、自分の力で解く道筋をつけてあげるとよいでしょう。

小学校高学年は自我がはっきりする時期でもあり、親の意見を素直に受け入れない場面も出てくるかもしれません。その場合には第三者を介して、学びの場を提供することも視野にいれてみてください。

